A-1

e-learning による語彙学習の効果
ＣＳＴ英単語コンテストの結果から
The Effects of the Online Vocabulary Learning Program Considering the Results from the CST English Vocabulary Contest

○秋庭大悟[1]，鈴木孝[1]，ジョゼフ・ファラウト[1]，中村文紀[1]，
ジョナサン・ハリソン[1]，乙黒麻記子[1]，丸聡弘[1]
*Daigo Akiba[1], Takashi Suzuki[1], Joseph Falout[1], Fuminori Nakamura[1]
Jonathan Harrison[1], Makiko Otoguro[1], Akihiro Maru[1]

Abstract: The aim of this paper is to report the result of the CST English Vocabulary Contest, which has been held annually since 2016. Considering the contestants' TOEIC L&R IP scores, entering the contest suggests a positive effect on their vocabulary building. It is also shown that holding a contest can help promote the use of the e-learning program outside the classroom.

１．はじめに

本稿では 2016 年度から一般教育教室 e-learning 研究グループにより実施されている「CST 英単語コンテスト」の成果報告と検証を行う．同研究グループは 2004 年度より e-learning の効果的な利用方法を継続して研究しており，これまで長期休暇中の資格試験対策講座において対面授業と e-learning 教材の併用が基礎学力の向上に有効であること [1] や，電子メールや e ポートフォリオによる学習サポートの有効性 [2] [3] の検証を行ってきた．しかし，こうした検証により e-learning の利用の有効性が示されてきた一方で，授業外における e-learning の利用の促進が進まないことが課題となっていた．本稿では単語学習のための e-learning の利用促進のために実施した「英単語コンテスト」の概要と，e-leraning による語彙学習が語彙力の強化に与える効果に関する考察を行う．

２．方法

本学では英語学習用の e-larning 教材として ALC 社の NetAcademy2 を導入し，全ての学生が使用できる環境を整えていたが，授業外での使用の促進が進まないことが課題となっていた．一般教育教室 e-learning 研究グループではその問題を解消するための手段として 2016 年度より「CST 英単語コンテスト」を開催している．回を重ねるごとに出題範囲やレベル設定の調整を行ってきたが，2018 年度に実施したコンテストの概要は以下の通りである．

コンテストはマークシートによる選択式の 200 問の問題（英単語を見て日本語の意味を選択する問題 150 問，日本語の意味を見て英単語を選択する問題 50 問）に 15 分で解答し正解数を競う形で行われた．コンテストは学内で実施された TOEIC L&R IP テストのスコアを基準とした Basic，Intermediate，Advanced の３つのコースで行い，NetAcademy2 の単語学習教材である Power Words の中から各コースのレベルに応じた 3000 単語を出題範囲とした．10 月中旬に参加者の募集を行い，学内で TOEIC L&R IP 試験が行われる直前の 12 月上旬にコンテストを開催し，上位入賞者には賞品を授与した．参加者は Basic コース 8 名，Intermediate コース 23 名，Advanced コース 23 名の計 54 名であった．

３．結果・考察

TOEIC L&R テストではリスニングとリーディングのそれぞれに対して，項目別の正解率を示す Abilities Measured という値が各受験者に示される．リーディングでは読解力や文法，語彙力を表す R1～R5 の 5 項目の正解率が示され，そのうち R4 は語彙に関する問題の正答率を示す．TOEIC L&R IP テストが新形式に移行した 2017 年度以降に本学で実施された過去 5 回の TOEIC L&R IP テストの結果を見ると，リーディングの各項目の平均正解率において，語彙力を表す R4 の正解率とリーディング全体の平均点との相関関係は他の項目と比べて強い傾向にあり，語彙力が高いほどリーディングのスコアが上昇する傾向にある．

コンテストの参加者のうち 2018 年 7 月と 12 月に学内で実施された 2 回の TOEIC L&R IP テストを受験した 43 名と同じく 2 回のテストを受験した受験生全体でのリーディングのスコアと R4 の正解率の平均を比較すると，コンテストの

１：日大理工・教員・一般

参加者の R4 の平均値は 0.8 ポイント上昇し，リーディングのスコアも 6.74 ポイント上昇しているのに対し，受験生全体では R4 の平均は 5.3 ポイント下がっており，リーディングのスコアも 2.5 ポイント減少している．

参加者に対して行ったアンケートでコンテストの参加に際して e-learning をどれだけ使用したのかを尋ねたところ，1 回の学習あたり 30 分以上利用したと回答した学生の R4 の値は 2.7 ポイント，1 時間以上利用した学生だと 6.7 ポイント上昇していることが確認された．また，「今回のコンテストが語彙力増加に役に立ったと思うか」という問いには参加者の 70%が「役に立った」と回答した．こうした結果より，英単語コンテストのための e-learning を用いた単語学習が語彙力を増加させ，結果的に TOEIC L&R IP テストにおけるリーディングのスコアの増加に貢献しうることが示唆される．

コンテストに参加を希望する学生は他の学生と比較して語彙学習に対する意欲が高いと考えられるため，コンテストへの参加が語彙力の増加の直接的な要因であると結論づけることは難しいかもしれないが，参加者に対して行ったアンケートでは参加の動機として「賞品が魅力的だったから」と答えた学生が 38%おり，コンテスト参加の動機が必ずしも語彙学習に対する意欲の高さだけとは言えないことが伺われる．

今回のコンテストの参加者のうちコンテストへの参加にあたり初めて Power Words を利用したと答えた全ての学生が今後も継続して利用したいと答えており，e-learning の利用促進という当初の目的も達成されたと言える．

４．結論

英単語コンテストの実施を通して，e-learning による単語学習が語彙力の増加に有効であることが示されると共に，上位入賞者に賞品を授与するコンテスト形式のイベントが e-learning の利用促進と，継続的な利用のきっかけとなり得ることが示唆された．今後の課題として，e-learning のさらなる利用促進のために，より多くの参加者を集めるための工夫が求められている．また，今年度後期より NetAcademy2 に代わる新たな e-learning のシステムとして NetAcademy Next が導入されており，今後も継続してコンテストを開催し，その学習効果の検証を行っていきたい．

５．参考文献

[1] 谷岡朗，中川浩，周一川，郭海燕，鈴木孝，多惠基継，ジョセフ・ファラウト，中村文紀，ルート・ヴァンバーレン，ジョナサン・ハリソン，福田敦，石坂哲宏：「TOEIC Bridge との関連から見た英語 e-learning 学習の活用について」，第 53 回日本大学理工学部学術講演会（CD-ROM），63-64，2009.

[2] 内堀奈保子，谷岡朗，鈴木孝，多惠基継，ジョセフ・ファラウト，ルート・ヴァンバーレン，中村文紀，ジョナサン・ハリソン，乙黒麻記子：「電子メールサポートを利用した e-learning の活用：2012 年度「TOEIC 短期攻略講座」の成果から」，第 58 回日本大学理工学部学術講演会（CD-ROM），7-8，2014.

[3] 秋庭大悟，谷岡朗，鈴木孝，ジョゼフ・ファラウト，中村文紀，ジョナサン・ハリソン，乙黒麻記子，内堀奈保子:「e ポートフォリオによる自主学習のサポートの有効性とその課題」，第 60 回日本大学理工学部学術講演会（CD-ROM），28-29, 2016.